

Title	企業の株式公開時における株式市場選択要因
Sub Title	
Author	諸越祐之(Morokoshi, Yuuji) 鈴木, 貞彦
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2000
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2000年度経営学 第1644号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002000-1644

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	鈴木 研究会	学籍番号	89928993	氏名	諸越 祐之
(論文題名)					
<h3 style="margin: 0;">企業の株式公開時における株式市場選択要因</h3>					
(内容の要旨)					
<p>1996年11月のいわゆる金融ビッグバン構想をきっかけに、おもに中小ベンチャー企業向けの株式市場として、既存の店頭市場へ対抗するようにマザーズ、ナスダックジャパンが開設され、2000年には本格的な株式市場間競争の幕があけた。このことは、企業にとって株式を公開するときにその株式市場を選択できるようになったことを意味する。</p> <p>本論文では、企業が株式を公開する株式市場を選択する意思決定がどのようになされるのかを検証した。企業は株主資本価値を高めるために株式公開をするが、具体的に株式市場はどのような特徴を持つのか、企業が何を株式を公開する意義としているのか、企業が何を実現したいのかを検討し仮説を構築した。仮説を検証するために、株式を公開した際に株式市場の選択機会があった企業を調査対象としてインタビューを行ない、そこから実際の意思決定のしかたを調査した。確認できた仮説検証の結果は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コストリーダーシップ戦略を最も重要視する企業は、資金調達を目的を重視し、そうでない企業よりも流動性が高い株式市場を選択する傾向がある。 ・ 差別化戦略を最も重要視する企業は、知名度の向上と優秀な人材の確保を目的として株式を公開するが、それを実現するために公開基準が高い株式市場を必ずしも選択しない。 ・ 成長が高い先端業界に位置する戦略を最も重要視する企業は、早期に株式公開のメリットを享受するために、早期の株式公開ができる可能性の高い株式市場を選択する。 ・ グローバル戦略を最も重要視する企業は、海外での知名度向上の目的を重視し、国際的に展開する株式市場を選択する。 <p>その他調査で確認できたことは、株式の公開目的については意識するが、株式市場の機能についてはそれほど重視しない企業が多くみられた。同様に、投資家の立場からの株式市場への認識や、公開企業としての自社の認識も重視されていない傾向がみられた。また、株式公開自体が目的になってしまっていることも示唆された。この原因として、まだ各株式市場の特徴が固まっておらず、不透明感が強いことが指摘された。</p> <p>株式市場にとってはその特徴付けを明確にして機能を充実させること、そして企業にとってはそういった株式市場の機能を十分に認識することの必要性がうかがえた。</p>					